文化財 関心を高めよう

先ず学校教育から

文化財保護委 対策にのり出す

日本民族の遺産、文化財にたいしてはまだ世間の関心が浅く、重要文化財を売却したり、故意に破損したりする例が絶えない。そのため最近各方面から文化財保護の要望が高まりつつあるが、文部省部内の文化財保護委員会でも〝先ず学校教育から〟と担当部局に呼びかけている。さらに昨年創立十周年を迎えた全修協でも記念事業の一つとして〝自然文化資源保存の教育運動〟を本年度から展開することになり、ここしばらくは文化財保護に大きな成果がみられよう。

文化財にたいする社会一般の関心度の低さを示す例として、文部省が行なった最近の調査結果をみよう。

まず①文化財という言葉をきいたことがある＝七九%、②文化財は十分に保護されている＝一〇・六%、わからない＝一〇%、③文化財五十二件のうち名前をきいたことがある＝五一%という数字が出た。③のなかでは、さすがに鎌倉の大仏、奈良の鹿、日光東照宮などは八〇%が知っていた。

また、「文化財として思い浮べるものはなにか」の問いでは、建造物や美術工芸品など有形文化財が四五%、史跡名勝、天然記念物をあげたもの二〇%、無形文化財一三%、民俗資料ではわずか二%だった。「文化財を実際に見た」のは一五・二%にすぎず、さらに文化財保護法や文化財保護委員会の存在を知っているものは六〇%。

これら認識の低さが文化財保護の大きな壁となっていることから同委員会では意識を高めるために子どものときから教えることが必要で、学校教育のなかに織り込むべきだとして文部省にたいし、教育課程に〝文化財〟あるいは、〝文化遺産〟として大きく位置づけてほしいと折衝をはじめた。

全修協と協力して

文化財保護委員会 坂元普及課長の話　成人にたいしてはマスコミなどを利用して理解と関心を深める方法もあるが、子どもには学校教育よりほかにはない。現在ではわずかに社会科、国語科で部分的に、また、エチケットに関しては道徳教育で扱われているにすぎないから、今後は重点的に〝文化財教育〟に取り組んでほしいと思う。

また、修学旅行は文化財に接触する絶好の機会であるが、それに関連する課題も多いので、これからも全修協とともに研究をすすめたい。

修旅のアンケート

秋田県、誘致の資料に

修学旅行の開発をすすめている秋田県（小畑勇二郎知事）では、秋田＝盛岡を結ぶ田沢湖線の開通を機に強力な誘致策を樹てることになりこのほど各方面に対し①教材②交通輸送③宿泊施設④その他＝の四項目について適否のアンケートを出した。おもな内容はつぎのとおり。

①教材＝八郎潟干拓地、生活風土、米作地帯、生産物（鉱物、農林、水産物など）、新産業都市、生物（動植物）民芸品②交通輸送＝男鹿地区・十和田地区の交通、バスの種類③宿泊施設＝浴衣、個別の食事、郷土料理、洗面所、火災予防対策④その他＝観光地までの距離は長いがその対策。

沖縄で文化財展

百四十三点を陳列

文化財保護委員会では一月二十日から二月十九日まで、沖縄の那覇市にある琉球政府立博物館で日本文化財展覧会を開く。絵画、彫刻など九十六件百四十三点で、文化の流れを中心に陳列、同胞に日本の文化を再認識してもらおうという。

不当な支出めだつ

文部省が改善を通達

修旅補助金

会計検査院では各省の四十年度補助金の支給状態を調べたが、それによると不正または不当に補助金が支出されているものがあり、各省にたいし改善を勧告した。

文部省の修学旅行関係で指摘されたものは①要保護、準保護児童生徒中、認定外のものにも支給されている②厚生省の教育扶助を受けているものも重複支給されている③修学旅行に不参加のものにも支給されているなどで、このほか対象外経費を修学旅行のしおり代薬品代、湯茶代、あっせん業者の添乗員宿泊費、不参加者への土産物代などにも支出にしたり、なかには日帰り旅行に宿泊費を加えた例もあったという。

これらの支出は「補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律」に違反することになるので文部省では各都道府県教委に対し学校での適切な指導を行なうよう要望した。

研修旅行に協力

宮崎県教職員互助会で

社団法人宮崎県教職員互助会（理事長＝田島正友氏）ではこのほど県下十二会場で第四回業務連絡会を開いたが、全修協の教職員研修旅行も全面的に協力することを申し合わせた。とくに同互助会では研修旅行のため積立て金利用を呼びかけているほか、会報特集として研修旅行号を発行、配布した。（写真は同互助会の業務連絡会）

文部省初中局財務課 いずれも五十嵐事務官の話　不正不当な支出というのではなく、費用の立替えなどの処理が完全でなかった例が多い。しかし一就学援助に関する法律」に違反してはならぬので各教委に注意をうながした。

海洋思想の普及へ

ふたば丸運営協で座談会

瀬戸内海の〝海の教室〟修旅専用船「わかば丸」「ふたば丸」を利用する児童生徒は年間約二十五万人に達するが、輸送の完璧を図るため結成されている「ふたば丸」運営協議会（堀江駒太郎会長＝大阪府立清水谷高校長）ではこのほど同船上に会長はじめ各委員、関汽側から平岡わかば丸船長、立花旅客部長（同協議会事務局長）ら、全修協から山本理事長、小西大阪事務所長が集まり座談会を開いた。船内見学や映画「若い瀬戸内海」を鑑賞したあと、いろいろ意見を交わした。関汽とのおもな質疑応答はつぎのとおり。

【問い】帰路は土産ものなどで荷物が多くなるので、あまり多く乗せないでほしい。

【答え】定員は船の大きさで定められ、一人当り〇・五五平方㍍で、これを基準にしているが、往路五百人にたいし帰路は四百人の割合いが適当である。もちろん旅行ピークのときは幾分多くなることもある。将来は定員より減らして乗せるようにしたい。荷物の多いときは通路に置いてもらっている。

【問い】船の部屋割りはいつ決めるのか。学校としては二、三日前に判れば都合がよい。

【答え】乗船の当日である。つまり実際の乗船人員が確定してからである。申し込み数と実際乗船者とで五十名以上も違うことがあり、さらに男女別の考慮も必要なので当日ということになる。

【問い】五十名以上も違うとは考えられないが。

【答え】水増しの申込みが原因である。これは学校側がやるのではなく斡旋業者がやるばあいが多い。しかし一概に業者ばかりは責められないと思う。一校だけのときは業者にまかせている。

【問い】人員の水増しのひどいときは協議会としても業者に注意したい。少くとも学校へは前日までに部屋割りを知らせてほしい。

【問い】船中で事故や病人が出たばあいは。

【答え】緊急事態のときは無電で最寄の岸壁局と連絡することになっている。また、一シーズン二、三回病人が出るが、いずれも帰路である。このようなときは最寄りの港に無電で連絡したうえ、臨時寄港する。一ばん遠いところでも二、三時間以内に到着できる。もちろん船中にも応急処置のための用意をしてあるから遠慮なく利用してほしい。

【問い】十年ほど前、ある高校生が船中で発病したことがあり、それ以来、船を利用しなくなった例がある。専用船に医師の添乗はできないか。そうすればもっと利用校も増えるだろう。

【答え】船の資格上では船医は必要でないが、たとえ船医を乗せるとしても医師不足と経費の関係で困難である。校医の同乗が望ましい。

【問い】高校は義務教育でないので医師の同行ができぬ場合が多い。そのため船内での医療設備の完璧を望みたい。

【答え】今までの経験だと発病の原因は過労と睡眠不足によることが多いので旅館での睡眠は十分とるようにしてほしい。

【問い】昨年、定時制の生徒が乗船したときは三校で二百人ぐらいだったので快適だった。ただ夜の航海ばかりなので瀬戸内海が眺められない。昼の航行はできないものか。

【答え】下り定期便の出航を二時間ほど早くすれば備讃瀬戸は見られるだろうが、そうなると別府到着が早すぎてしまう。船のスピードから考えて往復とも昼間の航海は無理のようだが、さらに検討したい。

【問い】船中での生徒の態度などについて気付いたことがあればきかせてほしい。酒やタバコをのむことはないか。

【答え】私たちのいうことをよく守ってくれるので何も申しあげることはない。酒やタバコをのむ現場も見たことはない。先生の指導がよいためだと思う。

【問い】生徒同士のケンカは。

【答え】そのような気配のあるときは先生にすぐ連絡して未然に防ぐようにしている。

【問い】ゴミは港外で捨てるよう掲示されているが、これは学校の指導に反するので、クズ箱に捨てるようにしてはどうか。

【答え】もちろん港内では海へ捨てることは禁じられているが、港外へ出ればよいことになっている。しかししつけの立場からみて不適当ならば改めて考えたい。しかし、このような航海のきまりのあることを知ってもらうのもよいと思う。〝海洋思想〟の普及という点で…。【写真は船上座談会と挨拶する堀江会長】

修学旅行のスポット

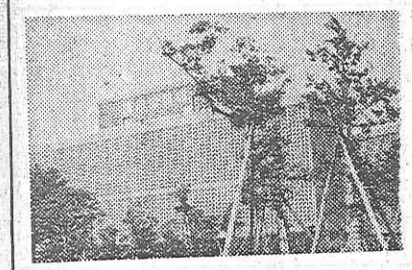
英知の集大成

〝〝〝〝科学技術館

○…さいきん科学技術館の見学が激増している。昨年十一月中の団体は修学旅行がほとんどを占め五万五千名を突破するという盛況である。財団法人日本科学技術振興財団が科学技術の知識を普及するため建設したもので、昭和四十年四月に開館した。地上五階、地下一階広さ二万二千平方㍍のうち二階から五階までが約四百点に達する展示場で、現代科学の粋を集成したもの。

○…とくに人気を集めているのがサイエンス・クラブで、いま第五期の活動をはじめた。科学、エンジン両教室や工場見学など科学少年、少女たちの夢をかなえている。

○…同館の屋上からは丸の内のビル街、眼下には皇居の濠や高速道路などが眺められる。この付近一帯は旧近衛師団のあと。いま丸の内公園として整備中で、完成したら東京の新名所となろう。技術館の大食堂は団体用として利用できるが、事前に連絡しておくと便宜を図ってくれる。大型バスの駐車場も拡張した。午前九時から午後五時まで開館。月曜休み、一月は五日から（祝日に当るときは火曜が休み）団体扱いは二十名以上で大学、各種学校一人百二十円、（二月一日から百三十円）高、中学生一人八十円（二月一日から九十円）。千代田区代官町二、電話（二一二）八四一一。交通は都電九段上から徒歩十分。都バス竹平町から五分。国電飯田町から二十分。地下鉄竹橋から五分。【写真は科学技術館】



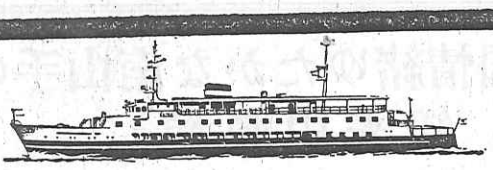
祭りの歳時記

〝〝〝〝みそぎ

佐女川神社

○…北海道からアイヌ文化以外に古い行事を見つけ出すのは困難だが、南端の渡島半島にある木古内町（きこないまち）の佐女川神社に伝わる〝みそぎ〟は北海道の民俗を代表するもの一つ。松前藩の家臣、河野守源広澄が武術の興隆を祈って天保年間に建立した佐女川神社で、毎年一月十八日に行なわれる寒中の行事である。

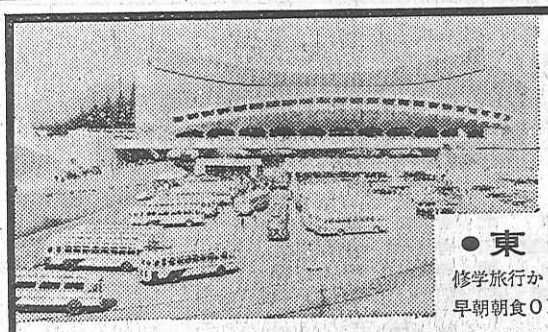
○…未婚の青年四人が一週間前から神社にこもって潔斎する。みそぎの日には白布を頭に巻き、裸一貫でご神体を捧げながら海岸を練り歩いたあと、海へ入ってみそぎをする。そしてご神体を洗いきよめ、また神社にもどってこんどは氷の張った水槽でみそぎを行なうという厳しいだけでも身ぶるいのする荒行事。いまは豊作や大漁祈願として催されている。（函館から江差線準急で約四十分、木古内駅下車）



瀬戸内海を走る
海の社会科教室
修学旅行専用船
わかば丸
ふたば丸

修学旅行専用船（1000トン型・全船冷暖房完備）2隻は、ツートンカラーのスマートな外観で、等級区別のないモノクラス船室、学習室・休養室・清潔な食堂などがあり、又学習室には海のライブラリーが完備、「動く海の教室」としてご好評を頂いております。

●修学旅行専用船のお問合せは……
関西汽船
大阪（441）代表9161



●東京の新名所
修学旅行からパーティまで……1000名様収容
早朝朝食OK　〒150より
屋内総合体育館の見学は午前8時から出来ます
NHK総合放送センター隣り
代々木 国立競技場大食堂 グリルF&L（レストランモデル箱根改め）
お申込み、お問い合わせは……有名旅行斡旋業者へ
（株）フジランド　東京都新宿区河田町7　フジテレビジョン内　TEL(353)1411(代)

万葉の歌枕たずねて

カメラとペンで10年

東京杉並の堀田勇先生　研究記録近く完成へ

万葉集に魅せられ、その研究に没頭すること四十年、しかも〝歌枕〟の記録収集のカメラとペンの旅をはじめてから十年という元小学校長さんがいる。記録は〝万葉集歌枕遍歴〟と名づけられ、近く完成の運びとなったが、旺盛な研究意欲の成果は万葉学界でも貴重な資料として注目している。それは昨年三月、東京・杉並区立馬橋小学校長を定年退職した堀田勇氏（六〇）その人である。

万葉集歌枕遍歴を語る堀田勇氏（東京・杉並の自宅で）

堀田先生が日本の文化遺産〝万葉集〟のとりこになったのは郷里熊本第二師範の学生時代だった。上京後、教壇に立つかたわら国学院大学文学部二部へ通って本格的な研究をはじめたが、研究が進めば進むほど万葉集のなかの歌のうたわれた名所を自分の眼で確かめなければならないと思うようになった。

「実際に足を運んでみること、これが万葉集の研究と鑑賞に必要だと思ったのです」と堀田先生はきっぱり言われる。地名の出ている歌を一首ずつ尋ねて写真を撮り記録にまとめ出したのは、ちょうど今から十年ほど前のこと。しかし、校長という重責を持つ身として、東京から遂く離れることはつらかった。「教育自体の研究とはいえないので、他人からは趣味道楽としか思われないのが困りました」と述懐する。だが、一度きめた信念はまげられなかった。こうして夏冬の休みや連休を利用しての旅がはじまった。

万葉集は約四千五百首、そのうち約三千首には名所や地名がついているが、はっきりと確認できる歌は約一千首あるという。先生は全巻から地名をひろい出して分類その場所へ出掛けた。例えば巻一にある「大和には群山あれどとりよろふ天の香久山…」の歌では、これも山部赤人が歌った甘樫丘（あまかしのおか）にカメラを据えて大和三山を撮影した。そのほか歌碑やゆかりの土地、建物など克明に撮影したり、歌碑の石刷を取ったりした。

しかし往年の姿をそのまま伝えているところは少ない。

巻九の「埼玉（さきたま）の小崎（おさき）の沼に鴨ぞ翼（はね）きる己（おの）が尾にふりおける霜を掃（はら）ふとにあらし」に見える沼を撮影するため埼玉県行田市まで足を伸ばして探索ようやくわずかに名残をとどめる乾いた沼あとを見つけたときの喜びはなかったという。

「行ってみると道路になっていたり、家が建っていたりして、がっかりすることもしばしばでした一日も早く記録にしておきたいと心ばかりがせかれるのです」と、はげしい時代のうつり変わりを嘆かれる。

こうして撮影した写真はすでに約二千枚、そのなかから代表的なものを選び出し、原典と解説、地誌を添えてまとめるのが大仕事だった。昨年三月、定年退職で堀田先生は学校を離れた。これで自分の時間が自由に持てることになり、今までの研究はさらに熟が加わった。昨年はほとんどこの研究旅行に費やした。

堀田先生の記録はしだいにまとめられ、「万葉集歌枕遍歴」全十四巻のうち既に半数以上が完成、あとは北陸の一部、琵琶湖、播磨灘、壱岐対馬周辺を残すだけで、〝北限〟といわれる福島県下まで足を伸ばした。「もう一と息です。何かのお役に立てば幸いです」とつつましくいわれる堀田先生である。

退職後、生活がルーズになってはいけないと毎朝六時半に起床、午前中は執筆と記録まとめ、午後は読書と所用にあて、夕方四時からは井の頭公園へ散歩。往復約八〝を歩く。公園では短歌の構想を練り、喫茶店でまとめるのが日課となっている。堀田先生は佐藤佐太郎氏主宰の「歌道」の同人でもある。

階下の応接間や二階の書斎には万葉集に関する図書がぎっしりつまっており、また、壁には先生の撮影した代表的な歌枕の写真が掲げられている。

冬の日のこもる書斎は明るく、和机に端座して研究をつづける先生の奥深い眼はらんらんと輝いている。日一日が先生のために訪れそして去っていくようだ。

自宅の庭つづきは農家の広大な雑木林。「ここだけは武蔵野の趣きが残り、オナガやコジュケイなどがさえずり、夜はフクロウも鳴きますが、十年前にくらべると半分の十五種ぐらいに減り、車の排気ガスで樹も枯れていきます」とさびしげに語る堀田先生だった。

秋は彦根城のお城まつり。名城といわれるこの城を紹介したあと町中にくりひろげられる井伊直弼の遺徳をしのぶ祭典と大名行列はそのむかしをしのばせるのに十分である。秋の夜、暗闇の舞台にくっきりと浮かびあがる薪能は圧巻といってよく、幽玄な境地に誘いこむ。宮田漸氏の解説もさすがである。

この映画は行事編ともいうべきで、いま製作中の文化財編が完成すれば修学旅行の事前指導用として好個の教材となろう。彦根市彦根観光協会企画、マツオカ・プロ作品。総天然色全二巻、上映時間二十分。なお貸出し希望のときは彦根市役所かマツオカ・プロ（東京都杉並区和泉三ノ四八ノ一二、電三二八一四四六）へ問い合わせのこと。料金は十六ミリ版で千八百円。

【写真は彦根城＝同映画から】

昔の旅は命がけ

＝旅と宿の今昔話＝

石塚妙子

○…ホテルの語源は古代フランス語のホステルからきておりホステルはラテン語のホスピターレからきている。ホスピターレは大きな家の意味で、ローマ古代人はこの大きな家で家族的ふん囲気によるもてなしをうけて一夜を明かし旅でうけた傷や病いをいやしたわけである。今日の病院（ホスピタル）の語源もやはりこのホスピターレからきている。

旅（トラベル）の語源はトラバイユ、すなわち苦労すると同義語で、今日のレジャーと結びつけられる旅の楽しみなどとは想像もできない〝苦しみ〟であった。

○…何年か前の日観連の大会の袋に「よいよき宿とらん」という芭蕉の奥の細道の一句が印刷されていた。なかなか気のきいた句だが、奥の細道の紀行では、ゆく先々先きにりっぱな旅籠（はたご）が完備していたわけではなくもっぱら民宿か悪くすると野宿だった。千住の渡しを越えるとき道に寝倒れが飢えてないているのを芭蕉が見て通ったくらいだから、貧窮した世相が察しられる。

だから芭蕉のいう「よき宿」とは「気のよいおかみさんがもてなしてくれる民宿にでも当るといいがなア」というのが本来の意味なのである。それでも〝のみ虱、馬の尿する枕許〟の連の悪い馬小屋泊りもあって、一般に昔の旅は憂いもの、つらいものだったようだしかし芭蕉は行く先々の土地に俳諧の理解者がいて、句会を興行するスポンサーになってくれるのでそこで師匠としてもなされる宿泊こそは、彼のごとき楽しみだったであろう。

○…日本では大宝律令以前には僧行基が提唱したといわれる布施屋が街道の要所要所にあって、旅人は臥屋で雨露をしのいだが、大化の改新で駅制ができ駅舎が作られた。平安時代に宿駅制度ができるとともに社寺の宿坊や村の民家の宿（民宿）が旅館の代りをつとめていた。

専門の職業としての宿屋ができたのは約七百年前、鎌倉中期ごろ大寺の天蓋門の前にできたのが第一号だという。（松本清張氏の、「奈良の旅」による）武家政治の鎌倉時代には、宿泰行という制度がしかれ、官吏や公人用にあてられたが、一般人の利用できる宿が普及したのは室町時代からであるこの頃は馬のカイバをつめる旅の籠を用意していたことから旅籠屋と呼んだ。室町時代の末期にはホシイ（米）を湯に浸して食べる湯をわかしてもらう薪代（木賃）を払って泊まる木賃宿ができた。

○…旅館が本格的に発展するのは徳川時代で、参勤交代制度がこれを助長した。大名、小名の泊まる宿を本陣、脇本陣といい、家臣や足軽の泊まる宿を旅籠屋と呼んだ。これらは二食つきであった。明治以降、旅館と名は変わったがホテルと旅館との定義がはっきりせず、長いあいだ混同して使われてきて、本格的にホテルという名が使われはじめたのは、宿泊業が大企業として成長しはじめた近代になってからである。現代の日本の旅館の多くは家族的な小企業であるために、外国の感覚ではホテルでもないーイン（宿屋といった感じ）ということばが多く使われ外国ではジャパニーズ・インと訳しているところがある。

○…とかく洋の東西を問わず、昔の旅は苦しいものであったらしい。万葉集にも〝家にあればケ（茶椀）に盛る飯を草枕旅にしあれば草の葉に盛る〟と詠まれているし、山賊野盗の横行した時代はこれまた命がけの覚悟で家人と水盃をして旅に出たものである。

紀貫之が四国から一族をつれて船旅で京都へ帰任する日記にも海賊が追ってきて危うく追いつかれそうになったとあり、長いあいだ入浴しないので、女性たちは寄港した土地の水溜りで恥かしさも忘れてストリップになって身体を洗ったと書いている。それを思うと現代の旅は実にスピードアップされ、快適な泊り心地というべきであろう。人生の中で苦しみであった旅が、人生の中の愉楽に変わってきた。平和と文明のおかげである。（全関東団体旅館協議会事務局長）

変革期の修学旅行 ①

山本実

修学旅行の不要論や改善論がマスコミにとりあげられたり、関係官庁や学校当事者の間に、修学旅行の「ねらい」や実施上の疑問、日程、コースの変更などの動きが各方面に起っているのは、いったいどういう訳だろうか。

第三者の立場から、そのような修学旅行の論議や関係者の動きを見るとき、明らかに現在は修学旅行の、大きな変革の曲り角にきていることを痛感する。修学旅行が何が故に曲り角にあるのか。その原因について、修学旅行を構成するいくつかのファクターを通して、述べてみよう。

先ず第一は歴史性である。

修学旅行が明治以来の長い歴史的背景の上に立って今日まで続けられ、この慣習の上に安住したことが惰性的な、模倣的なマンネリ化の修学旅行を生み、学校の研究心、自主性を失い、修学旅行の教育効果を著しく減少させるばかりでなく、事故や非行の遠因にもなり、世論の批判の原因になっている。

第二は地域性である。

修学旅行の形態は、各都道府県や各市町、各小・中・高校によって千差万別である。この地域差や学校差は、修学旅行の目標額のない中学校が五〇%、高校が六四%もあり、約半数以上の学校が具体的な指導案なしで実施の具体策を不明確にし、確固たる指導理念をなくし、主体性を失う危険をはらんでいる。

第三は交通性である。

専用列車を生んだ昭和三十四年ごろの交通事情と、新幹線やバス道路の発達した現在とでは修学旅行の輸送に大きな変化をもたらしている。現在では効率的に、電車やバスなどの交通機関を利用することは常識化されている。したがって、地域や時間の制約をうける専用列車や電車の利用が、観光舗装道路やフエリボートの発達で自由に利用できるバスやその他電車、船などとのコンバインによる輸送へ次第に修学旅行の形態が変わりつつある。そのほか自動車のラッシュに伴う交通戦争とまで呼ばれる交通情勢の変化も、修学旅行で見逃がすことのできない変革への大きな影響の一つになっている。このような交通事情の変化が修学旅行コースに影響し、他のファクターと相まって従来のコースを再検討する原因をつくっている。

＝つづく＝

（全修協調研部長）

新映画

マツオカプロ作品〝彦根〟

琵琶湖畔の彦根市に伝わるいろいろな行事を夏と秋にわけて収録している。八月一日は水の祭り、竹生島の都久夫須神社で元火を受ける人々の表情と、彦根の湖岸にみられる昔のままの宗教行事の描写も美しい。続いて多賀大社の万灯祭や七夕まつり、また、夏の夜を飾る彦根ばやしの賑やかさなど克明に描いて

ことしの夏も　どうぞ

第11回　教職員研修旅行

コース
★北海道　★東　北　★佐　渡
★黒　四　★能登立山　★伊豆・箱根富士
★南　紀　★山　陰　★隠　岐　★四　国
★九　州　★奄美・徳之島　★沖縄　★香港・台北

申込み
詳細は学校へ配布した募集要項をご覧のうえお申込みください。

財団法人　全国修学旅行研究協会
東京都千代田区西神田1ー3（幅ビル）
電　話（262）2426・2932番

異国情緒ゆたかな南山手の
観光史料館
ながさき
異人館
600名様収容のレストハウス完成。
日本三大祭の竜踊を毎日ご披露いたします。
株式会社　国際観光センター　長崎市南山手町11　TEL（3）8580・8590番